

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	ベトナムFPT大学ビジネス英語及びインターンシップ・プログラム	
学部・研究科名	グローバル教育推進センター	
プログラム 実施期間	2018年2月20日～3月18日	
研修先(国・都市・施設名)	ベトナム・ダナン・FPT大学/連携企業・機関	
参加者数：19名		知の森からの支援者：11名
プログラム概要	全学部生及び修士学生を対象に、FPT大学(大学間協定校)と協同実施する約3週間のプログラムである。FPT大学及びFPT企業や連携機関では英語を中核言語としてICT技術の学習/開発と国際連携、グローバル展開を視野に入れた地域ビジネスの振興や国際化教育が進められている。本プログラムはこの環境を最大限に生かし、導入部でビジネス英語を集中的に学び、インターンシップに向けたコミュニケーション基礎力を養成した後、現地機関でのインターンシップを通じて、グローバル視野で展開されるビジネスや教育現場の実際を理解し、グローバル人材に必要な知識・スキルを自覚し、向上させる機会とする。より高度な実践学習を望み、その基礎力を備える学生はインターンシップでプロジェクト型の課題に取り組み、国籍混成メンバーで協力して所定期間内に成果に結びつけ英語で発表する体験を積む。また現地学生や他国の留学生との寮での共同生活、文化交流イベントを通じて異文化理解を深め、多様な個を尊重し、高めあうマインドとそれらを支える英語コミュニケーション力を養成する。これらを通じて、学生が自身の将来的なありたい姿の具体的なイメージをもつことができ、その後のキャリア形成計画を立てられるようになり、自立的なスキルアップを図っていく素地を形成することを狙いとしている。	

実施状況・成果

信州大学との大学間交流協定校であるFPT大学と協同で企画・実施するプログラムで、今回は2週間のビジネス英語を学んだあと1週間のインターンシップを行うコース(Aコース)、3週間のインターンシップを行うコース(Bコース)を実施し、学部1年生から修士2年生までの学生が参加した。

<Aコース>

ビジネス英語研修では、オフィスでの英会話やビジネス現場において求められるプレゼンテーション等のスキルに焦点をあてたアウトプットと文法、読解、ライティングなどのインプットをバランスよく組み込んだ英語授業で英語力と英語での発信力を高め、その後のインターンシップに備えることができた。アンケートでは12名中10名が英語授業の内容がインターンシップに「役立った」または「役立つ部分があった」と回答し、インターンシップ派遣先機関でのプレゼンテーションや教育機関での授業にも自信を持って臨むことができた。その後、ICT、Hospitality、Business、Educationから学生が選んだ分野の企業/機関でのインターンシップを行った。教育機関で日本についての授業を英語で行ったり、ホテルでは日本人の宿泊客を増やすためのマーケティングについてプレゼンを行ったりといった日本人の視点からアイデアを出し、提案するという経験を積んだ。インターンシップをとおしてコミュニケーション能力、主体的に動く力、柔軟な対応力がグローバル人材に必要な能力であると気付く学生が多かった。

<Bコース>

グローバルに展開する企業や機関で与えられた課題に対して問題を解決しながら取り組み、提案するという活動を主に行った。また派遣先機関によっては他国の留学生や他大学の日本人学生とチームで取り組む経験を積んだ。グローバル人材に必要な能力としてAコースの学生と同様の気付きに加え、より高い専門性や技術と答える学生もいた。また個人作業でもグループでの作業でも、所属するチームと密にコミュニケーションを取りながら進めることの重要性に気付く学生も多かった。

両コースともに学生寮では、ブルネイ、タイ、インドネシアの学生との共同生活を通して異文化理解を深め、国際的視野を広げると同時に友好な関係を築くことができた。特に同じアジアに住む英語がネイティブでない者同士の交流を通じて、英語を流暢に話す学生から刺激を受け、英語学習に対するモチベーションを高めるとともにコミュニケーションツールとしての英語の重要性に気付くことができた。その他、週末に行われた異文化体験ツアーではベトナムの歴史や文化を学び、日本文化紹介イベントでは学生が主体となって日本文化を発信した。

成果報告会では、インターンシップをとおして学んだことや成果をプレゼンテーションしたり、研修全体を通して学んだことをグループで共有した。研修を通じてコミュニケーション能力と発信力の重要性和その能力の向上を感じる学生がほとんどで、お互いの発表を聞く中でもその伸びを実感したようである。また他の参加者の異なる視点での気付きに驚きや感銘を受ける学生も多く、新たな視点で研修を振り返るよいきっかけとなっていた。今回の研修をきっかけに将来のありたい姿を具体的にイメージし、より専門的な留学や海外での就職を視野に入れている学生も出ている。

学生の声①-農学部 学生

ビジネス英語授業は留学経験のあるブルネイ人の先生が作ったクラスであるため、日本の授業形態とは異なり、アクティビティが多い授業であった。このような授業を初めて受けたため、興味深かったし、日本の”座学”と比較して、異文化であると感じた。この知識はインターンシップでベトナムの高校生に授業をする際にも大変役に立った。また同年代の他国からの留学生と寮生活を進めて行くにつれ、英語を用いての会話はもちろんそれぞれの文化に対する知識や、寛容さもまた重要なコミュニケーションをするための要素であることに気づいた。

学生の声②-教育学部 学生

英語を使って一般社会の中で仕事に取り組むことは初めてだった。英語力はもちろん重要な要素だが、グローバルな環境で自分の強みを発揮しながら働くためには何よりもコミュニケーションに対する積極的な態度が大切だと学んだ。

ウェルカムパーティーの様子



ダナン市内ツアーを楽しむ

